

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----------|
| 理念に基づく運営 | <u>11</u> |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | <u>2</u> |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | <u>6</u> |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | <u>11</u> |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| <u>合計</u> | <u>30</u> |

| | |
|-------|-------------------------|
| 事業所番号 | 2375000300 |
| 法人名 | 有限会社 ハートフルハウス |
| 事業所名 | ハートフルハウス グループホーム「よろこんぶ」 |
| 訪問調査日 | 平成20年12月24日 |
| 評価確定日 | 平成21年1月22日 |
| 評価機関名 | 福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ |

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月23日

【評価実施概要】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 事業所番号 | 2375000300 |
| 法人名 | 有限会社 ハートフルハウス |
| 事業所名 | ハートフルハウス グループホーム「よろこんぶ」 |
| 所在地 | 愛知県長久手町長湫宮脇47 (電話) 0561-61-2272 |

| | | | |
|-------|----------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ | | |
| 所在地 | 名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年12月24日 | 評価確定日 | 平成21年1月22日 |

【情報提供票より】(平成20年12月2日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | |
|-------|--------|------------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 | 14年5月1日 |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 9 人 |
| 職員数 | 12 人 | 常勤 7人, 非常勤 5人, 常勤換算 8人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------|------|
| 建物構造 | 木造 | 造り |
| | 2階建ての | 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|-----------------|----------|------------|----------|
| 家賃(平均月額) | 51,000 円 | その他の経費(月額) | 15,000 円 |
| 敷金 | 有(円) | (無) | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | 1,000 円 | |

(4) 利用者の概要(平成20年12月2日現在)

| | | | | | |
|---------|------------------|------|-----|----|------|
| 利用者人数 | 9名 | 男性 | 2名 | 女性 | 7名 |
| 要介護1 | 0名 | 要介護2 | 0名 | | |
| 要介護3 | 2名 | 要介護4 | 6名 | | |
| 要介護5 | 1名 | 要支援2 | 0名 | | |
| 年齢 | 平均 87.2歳 | 最低 | 73歳 | 最高 | 100歳 |
| 協力医療機関名 | 永井内科クリニック・田村歯科医院 | | | | |

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは昔からの地元民と新興住宅に住む若い世代が混在する住宅地の中にあり、築100年の木造2階建て古民家の1階部分を使用している。建物の雰囲気を壊さないよう後付けの手すりには木を使い、新設のリビングも間接照明や床暖房の使用でほっとできる空間づくりがされている。散歩に出かけなくても季節によっては広い木のテラスで太陽の陽を浴びたり、庭を眺めたり、食事やおやつが楽しめ、気分転換や五感刺激に役立っている。年1回一泊旅行を家族の協力を得ながら行い、入居者の日常見られない表情が見られることもあり、職員の楽しみにもなっている。介護度が上がりできることが少なくなりつつあるが、一つひとつの事柄の実行へのプロセスを大切にしていり寄り添った介護の実現を目指したいと考えている。職員の入れ替わりによる体制づくりもほぼでき上がり、町内の他のグループホームとの交流で職員の更なる資質の向上も期待される。

【重点項目への取組状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点でできることはすぐに実行に移し、廊下の電気の点灯は定着している。理念については毎年職員と話し合い、ハートフルハウスの理念も反映させて作成している。地域住民へは行事などを通じて今後も地道に働きかけをしていくつもりである。 |
| | 今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員で取り組んだ。項目数が多く初めての職員には難しい点もあり数回に分けて会議で意見交換した。職員は他の意見を聞くことで目線が変わり自己満足、自分本位の点に気づき勉強になったと感じている。今後の介護の統一性や自己成長に結びつけていきたいと考えている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 入居者家族代表、町内会長、長久手町福祉課職員、大家、民生委員、ハートフル職員が参加して3カ月毎に開催している。1月に防災体制の話し合いをして消防署の協力を得たり、3月の総会で外部評価の報告をした。参加メンバーの入れ替わりがあるので議題の取り上げ方が難しく、現状を知ってもらうためにホーム内の見学を行った。また、町内にある5つのグループホームの情報を得ることもある。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見箱は設置せず、来所時、家族会、介護計画更新時を家族とのコミュニケーションの機会とし、特に苦情もない。家族は訪問時に直接話しをしており、管理者も話しやすい環境づくりに努め、家族の意見、疑問、不満に柔軟に対応するようにしている。アンケート結果からも家族は何かあれば都度相談でき、時には介護の手伝いの申し出もあり、今後検討していくつもりである。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、お祭り、福祉まつりや職員が2カ月毎に集会所の草取りなどの地域活動に参加している。12月7日開催のもちつき大会ではぜんざいをふるまったりして地域の人々に楽しんでもらった。日本舞踊、アニマルセラピー、音楽デリバリー、早朝に男性の介護の手伝い等のボランティア、専門学校の実習生、高校生の奉仕活動の受け入れをしている。道をはさんで母体のハートフルハウスがあり回覧板を通じて地域の情報を得たり、デイサービスのレクリエーションにも参加している。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|--|--|---------------------|----------------------------------|
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | ホームの理念はよるこんぶ改善2008として「地域ボランティア発掘と継続 食を考える 季節を感じる生活の実施 防災を考える」の4点を掲げている。毎年職員全員で考え、項目ごとに担当者を決め実践に向け取り組めるようにしている。母体のハートフルハウスは「職員の幸せを考えた地域に密着したサービスの提供、社会貢献」を謳っている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念はリビングに掲示されている。職員には理念が現場の実践で活かせるよう2回の会議で繰り返し確認し意識づけを図っている。今年度は職員の入れ替わりがあり、まず日常業務を分担して流れをつかみ介護への土台づくりをした。理念は毎年職員との話し合いでつくり変えるのでこれを来年度へつなげたいと考えている。家族へは家族会で説明し理解を得ており、運営推進会議等で更に地域との連携を進めていきたいと考えている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会に加入し、お祭り、福祉まつりや職員が2カ月毎に集会所の草取りなどの地域活動に参加している。12月7日開催のもちつき大会ではぜんざいをふるまったりして地域の人々に楽しんでもらった。日本舞踊、アニマルセラピー、音楽デリバリー、早朝に男性の介護の手伝い等のボランティア、専門学校の実習生、高校生の奉仕活動の受け入れをしている。道をはさんで母体のハートフルハウスがあり回覧板を通じて地域の情報を得たり、デイサービスのレクリエーションにも参加している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員に会議で「ホームをよりよくするための見直し」と評価の意義を伝え、全員で自己評価に取り組んだ。初めての職員には難しい項目もあり数回に分けて会議で意見交換した。職員は他の意見を聞くことで目線が変わり自己満足、自分本位の点に気付き勉強になったと感じており、今後の介護の統一性や自己成長に結び付けていきたいと考えている。前回の改善項目は運営推進会議で防災について取り組んだ。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|---------------------|----------------------------------|
| 5 | 8 | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>入居者家族代表、町内会長、長久手町福祉課職員、大家、民生委員、ハートフル職員が参加して3カ月毎に開催している。1月に防災体制の話し合いをして消防署の協力を得たり、3月の総会で外部評価の報告をした。参加メンバーの入れ替わりがあるので議題の取り上げ方が難しく、現状を知ってもらうためにホーム内の見学を行った。また、町内にある5つのグループホームの情報を得ることもある。</p> | | |
| 6 | 9 | <p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | <p>長久手町の窓口へは相談ごとがあれば随時訪問している。平成16年5月によるこんぶが中心となって町内の5つのグループホームと「グループホーム連絡会」を立ち上げ、現状報告等をしながら職員間の交流、横のつながりづくりをしている。年に1回、町の職員も参加し情報交換をしている。</p> | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>職員は家族の来所時に口頭でホームでの暮らしぶり、健康状態を伝え、年4回開催の家族会でもホームの状況を伝えている。こまめに状況や状態の連絡をしており特に状態に変化があれば電話等で速やかに連絡をとり、信頼関係を築いている。家族へ送付される2カ月毎に発行の「よるこんぶだより」には今後の予定とともに行事、誕生会や日常の様子を写した写真が数多く載っている。入居者の重度化とともに実際の金銭の支払いは困難となりホームで金銭の預かりはしておらず、買い物時には立て替え払いし、領収書とともに家族へ請求している。</p> | | |
| 8 | 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>意見箱は設置せず、来所時、家族会、介護計画更新時を家族とのコミュニケーションの機会とし、特に苦情もない。家族は訪問時に直接話しをしており、管理者も話しやすい環境づくりに努め、家族の意見、疑問、不満に柔軟に対応するようにしている。アンケート結果からも家族は何かあれば都度相談でき、時には介護の手伝いの申し出もあり、今後検討していくつもりである。</p> | | |
| 9 | 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>管理者は離職を最小限に抑え馴染みの関係づくりの存続を目指しているが、今年初めに4名の職員の異動が重なってしまった。家族には来所や総会の際に職員の異動に関して伝え、入居者への伝達は聞かれれば伝え個々の性格や状態に合わせてゆっくりと時間をかけ不安を与えないよう配慮している。新しく入った職員は機会を捉えてまず知ってもらうことで信頼関係を築くようにしており、ほぼ1年で新体制の基盤はでき上がった。</p> | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----------|--|--|---------------------|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人教育制度（スポンサー制度）を取り入れマンツーマンでの教育体制を作った。社内研修やホーム内で年に6回ミーティング時に食事、体位交換、口腔ケアなどについて勉強会を開いている。年4回開催のグループホーム連絡会では認知症について学び、お互いの悩みを打ち明けたりもできる。年1回全職員が交代で参加する法人の現任研修があり、ホーム独自の研修として11月に町内のグループホームへ出かけた。外部研修も希望に沿って参加できるようにしている。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 愛知県グループホーム協議会に加入しホーム長が役員を務めている。あいち小規模多機能ケア連絡会に法人が加入しており、責任者レベルで勉強会に参加している。グループホーム連絡会が平成16年より年4回継続して開催されており、職員は他のホームの書式を見せてもらい見直しや検討ができ、良い刺激を得ている。今後さらに職員の町内にある他のグループホームとの交流、情報交換を通じてサービスの質の向上を図っていきたいと考えている。 | | |
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居相談から入居に至るまでの間に2～3日ほどホームへ来てもらい入居者と過ごし、少しでも場の雰囲気を感じてもらえるよう体験入居を実施している。また、職員が本人の状態を知る機会にもなり、入居判定にも活かしてしている。面談時には本人や家族の困っていること、疑問や不安に思うこと、実情や要望などをしっかりと聞き、できる限り要望に沿った対応、信頼関係を築くことができるよう努めている。満床の場合は町内の他のホームを紹介し合う協力体制がある。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 三食を共にし、生活活動全般（掃除、料理、洗濯等）や行事、外出を通じて喜怒哀楽を共にし、介護される一方で、共に暮らす共生者として入居者を大切な存在と感じ人格を尊重したサービスに心がけ、誰かの役に立っていると実感できる関係づくりに努めている。特に若い職員は畑仕事、料理、昔のことなど教えてもらうことも多く、日々の関わりの中で過去の経験、得意分野を活かす工夫をしている。「ありがとう」と感謝されたり、入居者の「笑顔」が職員の「元気の源」につながっている。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----------|---|---|---------------------|----------------------------------|
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1.一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>本人や家族との面談時の聞き取りや入居後の関わりを通じて生活歴、生活スタイル、希望や意向等の把握をしている。入居者の高齢、重度化で把握が困難な場合が多くなっているが、各々の表情や態度、行動を材料にしながら、職員の様々な意見、センター方式の家族版の活用で入居前の暮らしぶりをヒントにして人物像をつくり上げ介護に活かしている。把握した情報は記録に残し、職員間で共有し、介護計画等に反映している。</p> | | |
| 2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>入居者の担当職員が入居者の生活の状況や課題、短期目標、サービスの具体的な内容をまとめた個別援助計画案を作り、他の職員に見てもらい、ミーティングで他の職員の目から見た本人の様子や意見を出し合う。担当者は計画作成に当たって本人、家族の意向を聞き、職員の意見を取り入れ、なるべく本人が望む生活が送れるよう本人本位の計画を作成している。作成後は家族に説明し確認してもらっている。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>見直しは3カ月ごとに行う。担当職員がモニタリング表でサービスの実施状況、目標の達成度、今後の方向性をチェックし、ミーティングで話し合っ新しい計画につなげている。家族の意見は計画更新の面談を行い聞いている。入居者の状態に変化があった場合は期間を待たずに見直し、現状に即した計画を作成している。</p> | | |
| 3.多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> | <p>医療連携体制をとり看護師と24時間連絡可能な体制をとっている。通院の付き添いは基本的には家族だが家族の状況に応じて要望があれば有償で職員が対応する。入院の場合は見舞いに行ったり、状況により退院について家族、医師と相談している。誕生月には個別の外出として思い出の場所に行ったり、好きなものを食べに行ったりしている。</p> | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----------|---|---|---------------------|--|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>内科医や歯科医の往診が月2回、併設デイサービスセンターの看護師が毎日立ち寄り、一人ひとりの様子を見ている。家族による通院付き添いの場合は、今までの情報や看護師の気がついたことを書面や口頭で家族から医師に伝えてもらう。認知症専門医に通院の際は日常の様子を詳しく伝えるために家族と共に職員が同行する。</p> | | |
| 19 | 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | <p>入居時に重度化に関する確認書で、ホームでできること、できないことを示し、本人、家族の具体的な希望を確認している。心身状態が変化した場合、状態変化に応じて家族、主治医や看護師、職員が話し合っている。現在、実際に医療が必要になった場合はホームでは対応できないため、今後どのようにするか決めなければならないと考えている。</p> | | <p>入居者の重度化が進んできており、家族の心配もあることから、重度化した場合や終末期のあり方について職員、関係者で話し合い、具体的な方針を示すことが望まれる。</p> |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | <p>個人情報外部に出ないよう、個人の名前のあるものは切断して捨てる、外部で事例発表をするときは家族の同意を得て、氏名はイニシャルで表記するなどとしている。ホーム内の掲示は介護に関わる個人の情報は、職員以外の人にわからないように個人名を記号で表している。入浴、トイレ介助の際は羞恥心に気を配っている。</p> | | |
| 21 | 52 | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>大まかな1日の流れはあるが、職員は入居者の顔を見て気持ちを汲み取りながら介護するよう心がけている。食事、就寝、入浴時間などは一人ひとりのペースを大切に、体調や気分を考慮希望に沿って支援しており、前年度よりゆったりとした生活のリズムで過ごせるようになってきた。馴染みの美容院へ通う方もあれば、数カ月に1回訪問美容師にお気に入りの髪型にしてもらおう方もあり、その人らしさの実現に向け支援している。体力やレベルの低下により役割や楽しみごとを活かすことが難しくなっている。</p> | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|--|---|---------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や片付けに参加できる入居者は少ないができる時に手伝ってもらったり献立の相談をしている。庭で採れた野菜を使ったり色取りや盛り付けで食事を楽しめる工夫をしている。庭でバーベキューをしたり炭で秋刀魚を焼いたり、かまどでご飯を炊いたりする。普段は反応がない人が「かまどで炊いたご飯だよ」との声かけに反応を示したことがある。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 風呂は午後の時間帯で毎日立てており、毎日入っている人もいるが多くは1日おきに入っている。希望者はできる限り同性介助をする。木の湯船で浴室のガラス窓から庭が見え露天風呂の気分を味わえる。ゆず湯や菖蒲湯を楽しみ、音楽をかけて湯につかる時間の目安にしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 重度化が進んでいる中で役割を持ってもらうのは難しい面があるができる人は洗濯物たたみや食器拭きを手伝う。夏場は花や野菜の水やりをする。楽しみとして外出行事や季節を感じられるような行事を計画している。一泊旅行は半年ぐらい前からどこへ行きたいか聞いたり地図を調べたりして準備段階から楽しんでいる。旅行があるからと頑張る人もいるので励ましながらできることに取り組んでもらう。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ほとんどの人が車椅子だが気候の良い時は近所を一周したり、家の前のテラスで日向ぼっこをする。散歩をしたり同法人のデイサービスセンターまで出かけてお茶を飲んだりする。時には職員と一緒に買い物や喫茶店に行くこともある。また、入居者全員と希望した家族で昭和村に遠足に出かけた。年1回は一泊の家族会旅行を行う。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員は鍵をかけないことを自然なことと考えており、日中は玄関の鍵はかけていない。玄関から道路に出る通路はリビングの前を横切っており、出て行く様子はすぐにわかる。以前は外に出て行く人があれば後からに付いて行って見守っていたが、現在は外に出てしまう人はいない。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|------|--|---|---------------------|--|
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 火災を想定して消防署への通報、消火器の使ったの消火訓練、車椅子を使い入居者全員を避難させる訓練を行った。法人が行った救急救命講習を受けている。災害時の備品として水、食料品、防災頭巾など用意しており、消費期限を確認している。防災頭巾は訓練時に使用した。2年程前には地域の人々にも参加を呼びかけ推進会議で防災講演会を開いたがその後の取り組みはない。 | | 推進会議で地域ぐるみの防災に向けての取り組みがあったが、会議メンバーの意見があり、まず内部の取り組みをきちんとすることからと考え入居者と共に避難訓練を行った。今後は推進会議メンバーの理解、協力を得られるように努めると共に、地域の人々の協力を得られるよう働きかけることが期待される。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 昼食の副食は同法人の宅配給食を利用しており、朝食、夕食の献立も栄養士のアドバイスを得ており、カロリー、栄養バランスは考えられている。食事摂取量はチェックされている。水分摂取量は必要な人はチェックし不足しないように気をつけている。一人ひとりの状態に合わせて刻み、ミキサー、とろみ状、ゼリー状などの食態で提供している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間は新築で手作りの木のテーブルや板壁、むき出しの太い梁など木をふんだんに使っている。床暖房で足元から暖かく、全体照明とスポット照明で穏やかな明るさである。居間の大きい窓の前には野菜や花が育っている庭があり、木々もあって小鳥がやってきて自然を感じることができる。トイレ、洗面所には椅子が置いてあり動作が楽になる。家の前の木の広いテラスは日向ぼっこや食事を楽しむなど有効に利用されている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は全室違う造りになっており、古民家活用の良さがあって落ち着いた。タンスや椅子、ベッド、ラジカセなどが持ち込まれ、家族の写真、人形、誕生日を祝った寄せ書きなどが飾られている。本人がすぐに横になったりねがえりを打ってごろごろすることを好むため、介護の苦労はあるが床に布団を敷いているケースがある。 | | |

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。